



学校だより 12月

平成30年11月30日 横浜市立芹が谷南小学校

ひとつのことば ～人権週間の取組～

学校長 高木 篤子

本校では、11月26日から12月11日を入権週間として、道徳の授業等を通して、子どもたちが人権を尊重することの大切さに気付き、互いに認め合おうとする気持ちを培う取組をします。

合わせて、人権・児童指導を視点とした「横浜子ども会議」と関連を図り、4年生～6年生の児童が全員で話し合う「芹南会議」を7月と12月に計画しています。今年度は、市のテーマを受けて「だれにとっても居心地のよい学校づくり」について話し合っています。7月の芹南会議では、相手の立場になって考えて行動すること、一人でいたら声をかけてあげること、相手を理解しようとする気持ちを大切にすることなど、子どもたちから活発な意見が出されました。その中で、自分たちの日頃の生活の中で、嫌な言葉や悲しくなる言葉が聞こえてしまうことを振り返り、ふわふわ言葉（ありがとう・がんばったね・大丈夫等）を言うようにする、一人がやさしい言葉遣いをする、友達に対して親切な言葉で向き合うなどの発言もありました。今月の芹南会議において、さらに子どもたち自身の気付きを深めることを期待しています。

11月の全校朝会で、人権の意味について担当の中西教諭より話をした後、人権週間を機に人の心を表す言葉への意識を高めてほしいと思い、私から「ひとつのことば」という詩を紹介しました。

ひとつのことばで けんかして	ひとつのことばで なかなかおり
ひとつのことばで 頭が下がり	ひとつのことばで 心が痛む
ひとつのことばで 楽しく笑い	ひとつのことばで 泣かされる
ひとつのことばは それぞれに	ひとつの心をもっている
きれいな言葉は きれいな心	優しい言葉は 優しい心
ひとつのことばを大切に	ひとつのことばを美しく



大人も子どもも、何気ない一言で人を傷つけてしまうことがあり、例えそれが誤解だとしても、相手の心に刻まれてしまうかもしれません。逆に、多くの人が温かい一言に励まされたり、勇気ももらったりした経験があると思います。自分の背中を押してくれた言葉は、いつまでも心に残るでしょう。言葉を受けるだけでなく、自分の伝えた言葉が少しでも相手の心に響き、元気になったり、自信をもったりすることにつながったらと願いたいものです。

言葉は心、心を伝える言葉の大切さをその時々子どもたちと共に考えていきたいと思っています。